

L5.444

*[by Aso Shigoru.]

67/14

C

BIBLE LECTURES SERIES NO.1

"The Science and the Bible"

科學と聖書

聖書講演集

第一輯

麻生茂著





聖書講演 第一輯

科學と聖書

麻生茂師講述

今から百年前、フランスの無神文豪ヴォルテールは、

今後十年を出ずして、聖書と称する非科学的迷信は、地上から其の姿を没する

と豫言した事があります。

明治の中年、帝大総長加藤弘之博士は、日本基督教と題する書に著

はし、當時の人々を以て、是れ日本に於ける基督教傳道の鬼の根絶止まつた一と言ひめたりでありまし

た。然し乍ら今日如何に出、ヴォルテールの名を知る者は少なく、加藤博士の著書はたゞた一部にへ残つて居るに過ぎぬ。故にかり姿を消す者の聖書は、一八七〇年以來、益々年々第一の發行部数を以て、愛讀されつゝ、乃ち下りたり。本當に

凡そ人は、凡て草の如し、凡ての榮は草の花の如し、單は枯れ、其の花は落つ、されど神の言は窮なく保

ツなり。(ペテリ前書一四)
 の如く、大文豪大博士の言も、所詮
 人々の言であり、時代と共に忘れ
 てゐる草下あり、花であります。
 窮りなき永遠に立つ言。それは聖
 書のみであります。古今東西聖書に
 比肩し得る人間の業は、たつた一つ
 もありません。

大正の初年、北海道大学の教授、
 松村万年博士が、聖書を攻撃批評し
 大書がありました。松村博士の聖書
 批評は、ヴォルテールや、加藤博士と
 全く、聖書は、非科学的迷信の書
 であり、現代人の信ずるに足らぬ水
 である、と、痛打したものであります。
 聖書は、果して科学的に正しく
 ない、迷信でありませうか。正史ま
 前、私も嘗てソウ思つた時代が
 りました。然し、其後自分聖書を
 勉強するやうになつて、迷信どころ

か、私共の想像も及ばない、科学的
 真理を持つ書である事を、學び知
 りました。驚いたりの下あり、私が聖書研
 究に興味を覺へ、一生の事業とせん
 と志したりは、實に聖書の、科学的
 正確さ、聖書豫言的確なる成就
 に基く点が、多いのであります。

科学と宗教の衝突

科学の進歩は、私共に多くの新知識
 を教えてくれ、今まで知
 り得なかつた天体の神秘、肉眼によ
 つて見る事の出来得ざる、微小生物
 の生活、驚くべき人体の構造、
 大自然万有の体系、教へてくれ
 たのであり、多く、今迄人
 類が真理を信じて居た事物が、
 續々と科学的発見の前に崩れて
 行つたり、でありました。其の中にも

特に科学と宗教は激しく衝突した
てありまふ。又して宗教と聖書では
ありません。宗教は無惨に敗れて
、現代人の信ずるに足りぬもつゝこ
て、智識人から捨てられたりであり
まふた。

然るに不思議な事は、斯く宗教が
科学者の銀ッメスによつて崩れて行
きましたに拘らず、聖書は、この科
学の攻撃の前に耐えた事でありまし
た、宗教は崩れ、聖書は耐えた、何
故でありませうか。
宗教は人間の智慧にて作り上げら
れ、聖書は神の啓示された書である
、有力な証拠であります。判り易く
言へば、今迄の宗教は、聖書に依り
根をおかず、人間の智慧にて作り上
げられたものが、より優秀なる智識
科学と云ふ、事実の前に脆くも
崩れて行つたのであります。た
科学と一致しない宗教は、是れは臆

て人々から忘れ、棄てられる運命に
あるや、事は間違ひありません。今
暫くの間、時間の許す限り、驚くべ
き聖書の、科学的正確に就き、考へ
て見たいと思ひます。

△地平説と聖書の勝利

人間は、永い間、我々の住む世界
は平面である、信じて参りまゐつた。
此の学説を、最初に發表したのは、
エヂプト、アレキサンドリヤの科学
者トレミウス云ふ人でありました。
西暦紀元前二百年、今から二千一
百年前の事であります。當時の学者
達は、全くこの説を支持したものであ
りました。

今日考へて見ても、寧ろ滑稽な学説
が、印度、支那、ギリシヤの学者達
によつて提唱され、當時の人々に信
じられ居たのであります。
印度の学者は、平面正大地を象が

支えて居り、象が大亀の甲の上に立
 ち、亀が蛇の頭の上に座つて居る
 だ、地震が起るうは、この蛇が動
 くからである、と、教えて居たの
 でした。誠に念入りな、こみ入つた
 話でありあす。ギリシヤの學者達は
 、大地は、巨人アトラスの肩に懸か
 る、と、説いて居たりした。日本
 の古事記に現わゆる、天の岩戸も矢張
 り、地球は平面である、と信じた思
 である事は、間違ひのない事實であ
 ります。
 免に角、長い間人々は、大地は平
 面であつて、地平線の彼方の海に行
 けば、奈落の底に、奥逆様に落ちる
 と、信じて居たり下ありた
 だ。
 千五百三十年、ポーランドの天文
 學者ニコラス・コペニカスが、初め
 て地球は平たくなひ、地球は圓い球
 である、と、古ひ出なつた。

は、宇宙は圓い事、従つて地球は圓
 い事、と、公にいたしまし、然るに
 以て、公にいたしまし、然るに
 時、地平説を固持して譲らなかつた
 、ローマ天主教会、並に科學者達
 反對、嘲笑に逢つ、遂に闇に閉
 塞され、仕舞つたのでした。
 千六百九年、伊太利ピサの天文学
 者ガリレオが、偶然望遠鏡を發明し
 、コペニカスの、宇宙圓形説を裏
 書き、再び世界の學界をシヨク
 たくました。然るに、當時の反動
 學者並に教会は、ガリレオを、神を
 冒瀆する異端者として、教会の議
 決り、遂に天主教の勞威に屈した。彼
 は、自説を撤回した。又此から百年
 後千七百年、世界最大の科學者、英
 國のアイザック・ニュートンによつ
 て、動かすべからざる万有不動の地
 圓説が、確立され、茲に地平説は完
 全に敗れたのであります。

トレミイ科学に、ギリシヤ哲学に、印度、支那の卓著に、スー了天主、宗教に、近代科学は勝つた。最初のトレミイが、地平説を發表してから、地圖説が確立する迄、近々七百年の間、神の啓示書——聖書は、この問題に何う教へつゝあつたのでせうか。若し聖書がトレミイ地平説を支持して居つたところたら、聖書は信ぜられ足りない書であり、二十世紀の我々に於て、縁のない本であります。旧約聖書イザヤ書第四十章二十二節を見ますと、

神は圓き地をはるか上に座し、地に住む者を見給ふ。大空を薄絹の如く布き、これを住まうべき幕屋の如く張り給ふ。

と述べてありました。今から二千三百年の太古、既に聖書記者イザヤは、大地の圓き球であることを、神により示されたりでありました。

地圖説は、神を冒瀆する、聖書の教に反する……甲論乙駁、傳統の信仰を擁護せんといつゝ、あつた宗教家、科学者達は、聖書の教に反対して、あつたりでありました。真正科学は、天啓聖書に、衝突のない事を喫ふに示して居ります。

▲ 空氣の存在と聖書

大地の圓き事をイザヤに啓示し給ふた神は、更に

大空を、薄衣の如く張り、之を幕の如く布き給ふ。

と、述べてゐ給ふた。

大空——即ち空氣を——神は地上に、薄衣の如く張り給ふと云ふ。我々が、我々の地球の周圍に、薄衣の如く、圍繞する大氣の存在を知つたのは、最近の事であつた。地上十哩内外に、我々生物の生存の出来得る様に、七九%の空氣は、二〇%の酸素

素の化合物に、少量のオゾン、アルゴン素、ヘリウム、ネオン、窒素、水素、酸素、薄衣、如く大地を布く、如く、科学的事実を聖書に書いた。如く、イザヤは斯る大事実を知り得た。

△空氣に重量あり

更に驚くべき事は、三千年五百年前に書かれた、旧約聖書ヨブ記の第二十八章二十五節に、記載されてゐる、空氣に重量のある、云ふ事であり、神は風に重量を與へ、水を量り、その量を定め給へり。

空氣に重量がある、今でも信じてない人があります。然し伊太利の天文学者が、是を十七世紀に見發、パスカールが、一平方時に十五斤の重量がある、確認發表した、今日之を疑ふ者は居ないと思ひます。

聖書記者ヨブは、何うして、三千年五百年の大昔、我等が、最近漸く發見し得た、科学的事實を、知り得たのでせう。聖書の記事は、神が書かしく、給ふた、動かすべからざる、證據であります。

△萬有引力説と聖書

二十世紀に於ける、世界最大の科學者、アルバート・アインシュタイン、近代に於ける、最大の科學的發見と、感嘆せしめたりは、ニュートンの、萬有引力の事實でありませう。

千六百六十五年、ウールズソップに於て、英國林檎の落るを見て、笑ひ、思つたのがアインシュタイン、ニュートンでありました。爾來ニュートンは、鋭意研究に没頭し、遂に千六百八十四年、不滅の大發見、萬有引力説を、世界に發表したのであります。

いた。彼等は當時の科学者、宗教家に斷固として反對し、地球は平面でない事。二地球には死えうる柱のない事。三、大地は見えざる引力にひかれ、虚空に浮ぶ球である事を、的確なる数学的論據の下に發表致し、未だ。實にアインシュタイン博士の云ふ如く、驚くべき革命的意見の發表でありました。

今日地球は、眞空に浮ぶ球である位、知らない者はありません。然るに、當時の學者達は、躍起となつて、保濟運動をいたしました。然るに何を知らん。聖書は、三千五百年の昔「大地は眞空に浮ぶ」と書かれた居たのであります。万有を創り給ふ大神は、この事實をヨブに教へ給ふたのであります。ヨブ記二十六章七節には

「神は北の天を大空に張り、
地を物なき所に懸け給ふ」

物なき所——即ち眞空に、然かも、柱なく懸け給ふ——と云ふのであります。

聖書は、信ずるに足らざる、迷信の本でありますか。……
ニエトンは先主の事三千年、ヨブは、この世界最大の科学的発見を、神の啓示によりて、聖書に、誌したてであります。

▲生命は血にあり。

人の生命は、何處に潜むの下でありませう。心臓でせうか。頭腦でせうか。呼吸でせうか。否、否、否。我々の生命は、我々の体内を流るゝ、血に在る事々、苦心の発見致しましたのは、千六百五十七年、英國の醫家、ウヰリアム、ハーヴェイが、血液循環法を發見した事によつてでありました。我々の血が清き時健康であり、血がにぎり腐敗する時、病氣を

する。身体シタイの十三分の一は血ヘであり、この血ヘ三分の一は、体外タイガイに失ふ時、死シを招く。マキエビツク、ミリノートルの血液ケツ中には、赤血球セキケツク五百万、白血球ハクケツク一百万の割合によりて、我輩の体内タイノウを流る。是に、我輩の生命セイメイが在る事、ハーヴエイは、三百年前發見したつてゐた。

然シカし、驚くべき事は、ハーヴエイに先立つ事、三十二百年、聖書記者モーセは、生命は血ヘに在る事を書いたのてありました。

凡ソレて、人の生命セイメイは、その血ヘに在り。是は即ち魂タマシなるなり。汝ニ、血ヘの肉ニクの血ヘをも喰ふべからず、是は一切の生命セイメイ其の血ヘに在るなり。

（記十七章十四節）

顕微鏡ケンバイキョウのみによつて、始めて知り得る科学的事実ジツツを、聖書記者は、いかにして知り得ましたか。

人を作り給ひし神カミのメ、人の真相シンソウを知り給ひます。神カミの智識チシキを人に與へずして、如何イカニして聖書記者は、この驚くべき事実ジツツを、知り得ませう。私が、聖書を天啓テンキである、と信ず、驚くべき科学書である、と、信ずる理由リユウは、茲ココに在ります。

人種に優劣なし

更に血液ケツの問題モンダに就いては、科学者は、永い間、人類は一つの血ヘより出来たのか、又は、多くの異つた血ヘより出たのか、論争ロンスウして居ました。然シカし、最近キンキンに至りまして、漸く、全人類ゼンリツは、幾く一つの血ヘより出来た事が判り、黒人、白人の區別ケツベツなく、赤血球セキケツクに一つの白血球ハクケツクを有つ、血ヘである事が判りました。然シカし、この人間の血ヘは、猿サルの血ヘと、遙かに異つた血ヘである事が、判りました。此の問題モンダに關して、聖書は、何と

教ふるのでせう、新約聖書使徒行傳
十七章二十四節には、

「世界を、その中の凡てを造り
給ひし神は、一人よりして諸
々の國人を造り出し、是を地
の全面に住ましめ給へり」
世界二十億の人類は、悉く、元々
正せば、一人の血より出で来つたも
のであると云ふ、聖書の二千年前の
記事で、近代科学はヤツト今頃判つ
て来たりであります。

△創世記に歸へる

近代の我々が、最も馬鹿にして居
て来たのは、創世記の人類創造説
でありました。然し乍ら、今日進ん
だ生物学者は、その研究の結果、遂
に、聖書の創世記に、歸らんといふ
のである、注目すべき事でありま
す。

最近、コロンビヤ大学教授ベネデ

クト並にウエルトファイッシの兩博士
によりて、發見せられた、人類の
種族と言ふ本の中には、決定的に
創世記のアダム、エバ創造説を、
肯定して居ます、
骨格、頭髮、皮膚、頭腦、人体の
構造は、白人、黑人、悉く同一であ
る。全人類は一人の祖先より出で
る、叫んで居ります。

創世記は、迷信であると言ふ人は
誰でありますか。

殊に、面白い事は、この創世記は
我々人間を土の塵を以て造つた
と云ふ記事であります。

我々は、土人形下にありますか、馬
鹿な、ギリシヤの學者達は嘲笑
たのです。然し驚くべく、今日、生
物学者は、人体は土の中に含まる、
元素によつて、構成されて居る事を
教えて居ります。

驚異的科学書、聖書!!、私はこの

聖書を神の啓示と見ると下あります。

△ 雲と水

雲は空に浮ぶ、白雲、黒雲、水の王であり、然るに地上から引上げられた水王である、考へたのは極く最近の事があります。然るに神はヨブに此の事実を記録せしめた。

神水を細かにして引上げ、霧の中に滴り出たり雨となし、人々の上に豊かに注ぐなり。

(ヨブ記三十八章二七)

天と地と交互に、雲になし、雨になり、地に降り、又昇りて雲になる。水の循環作用を如何して、聖書記者は三千年前、知り得ましたか、神が聖書記者の背後に在す、動かすべからざる證據下にあります。

△ 天体の運行

ヨブ記三十八章三節を、見ます。神は、彼に對し、次の經を知り、挑戦して居る。滅茶苦茶に、無規道的に、運行して居る。考へて居りました、天体は、実は、古不勲の法則——天の經——の下に、神によつて運行せられて居るのであります。

天文学者コペニカスカウガリレオ、ケブラ、ニュートン、シーンに至ります。進み、人類の天文智識が、進めば進め程、天体の警異、正確なる運行は、我々の畏敬を増すばかりであります。米國天文学の最高權威パサデナ工科大学教授ミリカン博士は「天文を研究する者にとり、神の存在を認め得ざる者は狂人である」となつて居る。

△ 癩病と聖書

極く最近に至るまで、癩病は遺傳

するものゝ居へて居た。然し近代の
腎科等は、痲痺の遺傳を否定し、傳
染すべき事を發見した。既約の記者
モーセは、この事実を知つて居た事
は、驚異に値する。しに記十三章四
十五節には、

痲痺を患ふ者は、汚れたる者
なり。人々を離れて居るべし。
又彼等の衣は、火にて焼く。

モーセは、何所から斯る智識を得
たりと云ふ。

無電と聖書

二十世紀の形勢は、何と云つても
無電の發明であり、華府の白雲
館の一室で話す、大統領の聲は、八
分の一妙で全世界に達する。無線有
相は、東京に在りて、伯林のヒト
しく、對話し得る。下あり未す。今
全世界はテレビジョンの完成に臨

起つて居ります。無電にて、世
界の何れの地點に於ても、其の姿を
送り得る。いは、無電の發明者マルコ
ニースは、氣が附かぬか、つたかも知
れません。

然し、神は、三十五五年前既にヨ
ブに、其の可能である事を教へ給ひ
ました。ヨブ記三十八章三十五節に
汝無電を遣はし往かす。汝
に答へて、我等は茲に在り。

言はしめ得るや。

無電とは今日の言葉で云ふとデ
のある事は、間違はありまじい。こ
の閃電によつて、吾等は東京に在り
て、華府に在りて言はしめ得るテレビ
ジョンは、今漸く完成せんとす。つ
あります。

驚くべき、聖書の科学的正確さ
科聖は、今漸く聖書に迫りつらん
とす。つあります。

近代科学の發見せる大法則は、既に幾千年間の昔、聖書に記し置かれた居ました。

地圖説、万有引力説、空氣の存在、生命の起原、創造説、

天体の法則、人体の構造組織、

デニビジヨン。

これなども、未だ聖書は、非科学

書と言ふは、誰であるか。

現に、此等は、神の御業の端なる

のみ。我等が聞く所は細まるゝ話な

うや、神の力の轟に至りては、誰

か、うんや。

斯く絶叫した、ヨブの驚き、

私の驚きであります。私は聖書を、

經天啓の書として、無條件で信

ます。

科学を越える聖書

科学は、人這の宗教の衝突いたし、ます。然し、聖書と真正科学には、

衝突はありません。衝突する筈が、ありません。同じ事や、異つた方面、

から言へば、聖書のうちに、未だ人間の科学

の理解は未得ない、多くの記事の書

かれてあります。理解は未得ないか

うと言つて、是を否定してはなりま

せん。

聖書には、この世界の終りがあ

る、書いてあります。この世界の終

つた後、神の作り給ふ、新天地

を現する、約束してあります。

聖書には、終りの日、居る人々

の復活を主張いたします。

聖書には、我等の住む地球の外に

、神の作り給へる住民——即ち天使

の存在を教へます。

知りました、聖書の記事の節に、科

学者は、呆然として居ります。天地

宇宙を造り給ふ神は、死人を甦り

いめる事は、誠に易々なるものでありませう。地上人類の世界を終り、朝飯前の事でありませう。

此の宇宙は、我輩人類の外、他世界に、生物が存在しない、断然するは愚であります。

科学は万能ではありません。より深く研究せる科学者は、より深き神の信仰を記してあります。

須大總長シヨルダン博士の言ふ如く、科学は未だに、生命の根元、地球の生成、地球の最後の運命に無知である。科学者は、生物の生存に絶

對必要なる、熱、光、空氣、水が、永久に乏へらるゝ保証は、何処にもない。と言はましたが眞理であります。

フランスの科学者バステルが、餅

科学者協会、入会祝賀会の席上、自然の事物を研究すればする程、

私は造物主の大智豪に驚く、実験室に於て、私は祈りつつ、研究に携る事が多い。と告白した。

獨逸の大天文学者ヨハネス、ケプラーは、私は聽て大自然の眞理が、天啓聖書に示されたる眞理と合致する日あるを確く信ずると、書きまゐた。

其日は、未だ来て居ません。然し確実に来つゝあります。科学は聖書の教えにボツク、進歩きつゝあります。

▲科学と聖書の一致

眞正科学と聖書は、決して衝突いたしません。ケプラーの言ふ如く、聖書と科学は、完全に一致すべき物であります。

一一致せざる處があるとするなら、其れは、科学は未だ神の啓示に達しないのであります。

ヴォルテヤによつて粉碎せられ、加藤弘之、松村万年によつて、息の

根を止められんとした、聖書は、今日反對に大學者の息の根を止めて、悠久の世界最大の書として、人々から愛讀せられつゝあります。

私共は、驚くべき神の書、聖書の内容を知る必要があります。

何故か、此の本の中には、我等が永遠に、朽ちざる、神の國に到るべき途を教えて居るからであります。

斯くの如き、偉大なる書を與へ給ひし神に感謝し、我々の物となりぬればなりません。アフリカ大陸の蒼人、アフリカイ島の生蕃ですら、更に世にめぐる神の言は、又私共々、新しき方に溢れしめて、飲びて希望に満ちる人生となさしむる、事が出来るのであります。

(了)

後記

教友、岩瀨氏の努力に依り、聖書講演第一輯が、立派に出上った。

傳道用として、御配付し、載せれば、本懐である。時局と經濟が許すならば、今後幾度も發行する計劃である。御声援を乞願いたします。

麻生茂

非賣品

著者 麻生茂
印刷 岩瀨一雄

發行所

〒100-0001 東京都千代田区千代田
岩瀨一雄

一九四五年一月發行

